

たばこによる影響

3年5組02番 乾珠緒
3年4組11番 佐藤花樹

keyword: 「タバコ」「環境」「事故」「危険」「健康」

1. はじめに

私たちは今の世の中が非喫煙者に良くない環境であることに疑問を持ち、タバコについての探究を始めた。喫煙者自身は気づいていなかったとしても、周りに迷惑になってしまうような行為が多々見かけられる。非喫煙者が声を上げたところで喫煙者が減る訳では無い。そこで、喫煙者が非喫煙者に配慮しながら喫煙をするという世の中に変えていかないとはいえないと考えた。この考えから、私たちは喫煙者や喫煙を始める前の未成年にタバコの危険性について発信し、喫煙者も非喫煙者も気持ちよく生活できるように変えていくため、この探究を始めた。

2. 序論

タバコのポイ捨ては近年問題となっている。タバコのポイ捨てにより火災や、環境汚染など私たちの住む地球に様々な影響を及ぼしている。あるひとつの事例では、木造2階建ての共同住宅の屋根に隣接しているビルから投げ捨てられたたばこの吸殻が、解体した物干し場の廃材の上に落ち、それに着火して天井裏まで焼けてしまった。また、タバコは地球上でも最もポイ捨てされている商品であり、7000種類以上の有害化学物質を含み、廃棄される際に環境中に漏れ出している。毎年およそ4兆5千億個のタバコのフィルターが私たちの海、川、街の歩道、公園、土壌、ビーチを汚染しており、地球の環境は大きな悪影響を受けている。これらの問題は未然に防ぐことができるのではないかと考えた。

3. 本論

私たちはポイ捨てを減らすために、喫煙者がたばこをポイ捨てしてしまう理由を考えた。私たちの中で一番の理由はゴミ箱が近くにないからではないかという結論に至った。そこで、持ち歩くゴミ箱制度というものがあれば喫煙者のポイ捨てが減るのではないかと考えた。私たちが考えたこの持ち歩くゴミ箱制度というのは、喫煙者がタバコを買う際に、各店舗でこのゴミ箱を持っているかの確認を必ず行い、持っていなければその店舗やどこかで購入しなければタバコが買えないという制度だ。

しかし、この制度は私たちの力だけでは実行が難しいため、イギリスで実行されている、投票式吸殻入れというものに目をつけ、私たちが住む日本各地でも実行できないかと考えた。投票式吸殻入れには、アンケートの質問が書かれており、2択ある回答のどちらかに吸殻を捨て、誰でも自由にアンケートに参加できる。この吸殻入れは透明で、たまった吸殻の量を外から確認できるため、タバコを吸う人も吸わない人も、アンケートの回答結果を見て楽しめる仕組みだ。実際にこの投票式吸殻入れによってイギリスでは、吸殻のポイ捨てが46%も削減されたという結果が出ている。その成果から、現在ではイギリスのほか、韓国、マケドニアなど世界38カ国で3,300個以上が販売され、約400万本の吸殻を回収しているそうだ。しかし日本では数箇所ですら設置されていない。日本で実際にこのゴミ箱が設置された渋谷では吸殻が90%削減、横浜の商店街では70%削減された。

この事例から分かるようにとても大きな効果があることは間違いないだろう。そこで私たちは日本全国でも設置されるようになれば、よりタバコの吸殻のポイ捨てが減り、環境への問題の解決に繋がるのではないかと考えた。では日本で投票式ゴミ箱が数箇所のみでの設置

なのはなぜだろうか。私たちは、日本はまだタバコによる害への危機感が足りていないからではないかと考えた。それでは何故、日本の国民には危機感が足りていないのだろうか。私たちは日本人の一人一人がタバコの吸殻による環境や事故への影響をあまり知らないと仮説を立てた。そこで、学校内の中学生、高校生を対象にタバコによる危険性についての発表を行った。この発表でタバコの喫煙による危険性については大まかには知っているものの、詳細は知らない人が多く居た。このことから、タバコによる危険性はもっと小さい時から詳しく伝えていくべきだと考えた。

4. 結論

投票式吸殻入れを日本各地でも取り入れることができれば、吸殻の問題は減っていくだろう。これから、タバコのポイ捨てを無くすために私たちには何ができるだろうか。一番大切なのは一人一人の意識ではないだろうか。意識している人は何故意識をして、意識していない人は何故危険性を知っていても意識しないのか。今後は一人一人の意識の変わり方についてもっと深く掘り下げていこうと考えている。意識というものは人に言われて変わるものではない。自分自身でタバコの危険性について、改めて考え直す必要があると私たちは思う。そのために危険性を知って意識して行動している人が、積極的に声を上げることも必要なのではないだろうか。

5. おわりに

私たちはこの探究を通して、人々の意識を変えることは難しいということ、そして新しい案を実現することは安易では無いことを学んだ。だからといってタバコの危険性を訴えかけること、つまり”発信”をやめてはいけない。誰かが発信し続けることによって人々の意識を変えることができるかもしれない。私たち一人一人が発信者であり、私たちが住む地球の未来を変えることができるのは私たちだけなのだ。その意識を持ってこれからも様々な課題に向き合っていきたいと思う。

6. 参考文献・出典

WHO(2022) タバコ産業の環境影響に警鐘を鳴らす (閲覧日：2024.5.15)

<https://esjournaljapan.com/world-news/17567>

染谷優衣(2022) ELEMENIST タバコのポイ捨てが46%減少 世界で広がる「投票式吸い殻入れ」対策がユニーク (閲覧日：2024.5.15)

<https://elemenist.com/article/1967>

消防局 予防部 予防課 タバコの投げ捨て (閲覧日 2024.6.3)

<https://www.city.osaka.lg.jp/shobo/page/0000144210.html>

未成年者の喫煙がいけない理由 (閲覧日 2024.5.22)

<https://www.city.anjo.aichi.jp/kurasu/kenko/column/documents/tobacco6.pdf>